

■「効果の見える治水事業」

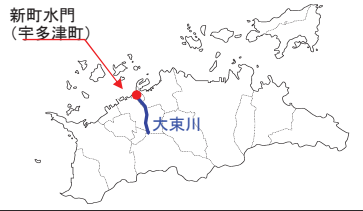
香川県 大東川(宇多津町)の治水事業
『大東川新町水門特定構造物改築事業』

あべ たかお

香川県土木部河川砂防課長 阿部 孝雄



位置図



大東川は、香川県中讃地域に位置しており、その源を丸亀市綾歌町とまんのう町の境界に位置する山地に発し、丸亀市飯山町、坂出市において支川を束ねながら北へ流下し、宇多津町で瀬戸内海に注ぐ流路延長約17km、流域面積約59km²の二級河川です。

その上流域は本川と並行する国道438号を中心に市街化が進行し、また、その下流域では瀬戸大橋の起点として社会基盤が形成されています。

本河川においては、昭和初期より河川改修事業として河口から我楽橋に至る約6.6km間の引堤や掘削による河積の拡大ならびに護岸の整備を実施しており、現在に至っています。

これまでに大東川では、流下能力不足のため、度々台風などの大雨によって氾濫を繰り返して、浸水被害が発生してきました。

このような現状において、概ね50年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを目標として、平成13年度から我楽橋から富士見橋までの約1.7km間を飯山工区とし、掘削、築堤、護岸整備、狭窄した橋梁等大規模構造物の改築を進めています。

また、河口部には塩水遡上を防止することを目的として設置された「大東川新町水門」があり、昭和29年より供用を開始しており、今年度で供用年数は59年を迎えます。

感潮区間といった厳しい環境の基、供用年数も長く、老朽化対策が喫緊の課題となっており、今後施設の老朽化により補修・更新費用が増加することから、計画的かつ効果的な維持管理が求められています。

そのため、平成21年度より特定構造物改築事業にて、施設の長寿命化計画を策定し、計画に基づいた延命化措置を開始したところであります。

平成22年度は機側操作盤の更新を、平成23年度からは扉体の塗り替え、堰柱の電気防食、門柱及び上屋の断面修復等を、治水機能を確保した上で数年に分けて実施しています。

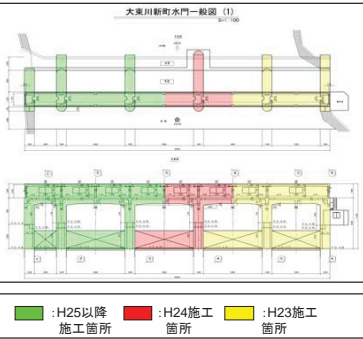
こまめな塗装の塗り替えや機器の分解整備等を行うことで、既存インフラ施設の信頼性を確保し、機器の延命化に努めることで、保全コストの縮減を目指します。



構造物名称	大東川新町水門	寸法	No.1	3.40×3.00
目的	防潮		No.2	9.00×3.00
竣工年度	昭和29年(1954年)	径間×有	No.3	9.00×3.00
形式	電動ローラゲート	列高(m)	No.4	9.00×3.00
駆動方式	電動ワイヤーロープウィンチ式		No.5	7.40×3.00
操作方法	機側及び自動操作	水門延長		46.8m
ゲート数	5			



鉄筋露出 ワイヤロープ素線切れ
施設の劣化状況



■:H25以降 施工箇所 ■:H24施工箇所 ■:H23施工箇所

「安全・安心のまちづくり」



たにかわ としひろ
宇多津町長 谷川 俊博

宇多津町は香川県のほぼ中央に位置し、東は坂出市、西は丸亀市に隣接する人口約18,600人、総面積8,07km²の県下で最も小さい町です。7世紀後半にはすでに、海上交通の港(津)、“鶴足津”と呼ばれる自然港が現れた歴史ある街です。室町時代には将軍足利義満の側近だった細川頼之公の居館が置かれ、四国の政治・経済の中心地として栄え、古くは28ヶ寺が建立されていました。今も旧市街地には四国八十八ヶ寺霊場の一つ郷照寺をはじめとした1社9ヶ寺や町家など往時を偲ばせる古い町並みが残っております。

また瀬戸内海特有の気候を利用して、江戸時代中期から昭和47年の塩田廃止までは、全国屈指の塩の町でもありました。こうして古くから、政治経済文化の拠点として発展を遂げてきた本町は、臨海部の塩田跡地を土地区画整理事業により、瀬戸大橋架橋を機に、新宇多津都市という新しい町の表情を生み出しました。平成20年には町制施行110年を迎え、これを節目にさらに新たな歴史を築こうとしています。

さて、現在の治水事業に関しますと、宇多津町を横断する2級河川、大東川の新町水門の老朽化が懸念され、香川県において延命化措置を実施いたしております。もう一方の2級河川である鴨田川についても、内水氾濫の課題であり、香川県と住民の皆さんとの協議を進めている所であります。

災害対策に関しますと、平成16年に多発した台風や土砂崩れなどでの被害や、近年危惧されている南海トラフの大地震に備え、今年から危機管理課を設置いたしました。去年の3月11日に起きた東日本大震災を教訓に、自主防災組織単位で防災訓練をしながら、危機意識の高揚を図っています。

宇多津町の平成24年10月現在の自主防災組織数は35です。まだまだ他の市町村に比べると組織率が低いのですが、自主防災組織拡充への支援を行いながら、組織率アップを目指しています。また、防災訓練や広報を通して住民の皆さんに「自助・共助」をお知らせしておりますが、最後の砦「公助」にも力を注ぐべく、いざ大災害が起こった際の初動対応により、住民の生命と安全を守るために、職員一同「安全・安心のまちづくり」を目指して参りたいと考えております。

訓練の様子



水防訓練



心肺蘇生法



避難訓練



図上訓練